

研究教育業績（過去 5 年間）

I. 研究業績

1. 主な発表論文

[原著論文]

- 1) 新井一郎, 碓谷奈緒美, 山路誠一, 津谷喜一郎. 漢方論文における「漢方処方名ローマ字表記法」(2005) 処方名の採用状況-PubMed を用いたタイトルないしアブストラクトの分析. *日本薬科大学教育紀要* 2017; 3: 42-7.
- 2) Motoo Y, Hakamatsuka T, Kawahara N, Arai I, Tsutani K. Standards of Reporting Kampo Products (STORK) as a reference for Kampo extracted products. *Journal of Integrative Medicine* 2017; 15(3):182-5.
- 3) 湯川慶子, 石川ひろの, 山崎喜比古, 三澤仁平, 津谷喜一郎, 新井一郎, 元雄良治, 木内貴弘. 代替医療の利用における慢性疾患患者の経済的負担、心理的負担、および医療専門職によるフォーマルサポート. *薬理と治療* 2017; 45 (3) 345-55.
- 4) 湯川慶子, 新井一郎, 鶴岡浩樹, 元雄良治, 津谷喜一郎. EU の補完代替医療研究プロジェクト (CAMbrella) とロードマップ -日本への示唆-. *薬理と治療* 2016; 44 (3) 333-43.
- 5) 新井一郎. 日本漢方産業の歴史. *薬史学会雑誌*. 2015; 50 (1): 1-6.
- 6) 津谷喜一郎, 湯川慶子, 長澤道行, 新井一郎, 五十嵐中, 折笠秀樹, 鶴岡浩樹, 福山哲, 元雄良治, 山崎喜比古. 代替医療による間接的な健康被害の実態. *薬理と治療* 2014; 42: 1005-14.
- 7) Motoo Y, Arai I, Tsutani K. Use of Kampo Diagnosis in Randomized Controlled Trials of Kampo Products in Japan: A Systematic Review. *PLoS ONE* 2014; 9(8): e104422.
doi:10.1371/journal.pone.0104422

[その他]

- 1) 新井一郎. 英語論文における漢方製剤の説明方法. *漢方医薬学雑誌* 2017; 25(2): 49-51.
- 2) 新井一郎. 漢方薬・生薬の薬理研究の役割. *漢方と最新治療*. 2017; 26(4): 263-6.
- 3) 新井一郎. 漢方薬のエビデンスと診療ガイドライン. *漢方と最新治療*. 2017; 26(2): 111-19.
- 4) 新井一郎. 漢方薬のエビデンスをささえるもの. *漢方と最新治療*. 2017; 26(1): 21
- 5) 新井一郎. 薬学教育と健康食品. 一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会、健食フォーラム、健康食品コラム 2016.8.5., <https://www.kenshoku-forum.jp/column/>
- 6) 新井一郎, 元雄良治. 補完代替医療の診療ガイドライン. *医学のあゆみ* 2015; 253 (11): 1121-5.
(別冊医学のあゆみ 補完代替医療とエビデンス (大野智、津谷喜一郎編集)、医歯薬出版 (2016) pp28-32.)
- 7) 津谷喜一郎, 湯川慶子, 長澤道行, 新井一郎. 代替医療に関する情報の問題点と情報ニーズ : 2014 年医師調査から. *日本医師会雑誌* 2015; 144 (2): 318-22.
- 8) 新井一郎. ISO における中国伝統医学の国際標準化. *医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス* 2014; 45: 828-41.
- 9) 新井一郎. 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン (KCPG). *漢方と最新治療* 2014; 23: 231-6.
- 10) 新井一郎. 品質の「よい」漢方エキス製剤とは. *病薬会報 (富山県病院薬剤師会会報)* 2013; No.123: 10-14.

- 11) 新井一郎. 漢方・生薬製剤に関わる国際標準化. 漢方と最新治療 2013; 22: 21-8.

2. 主な学会発表

[国際学会]

- 1) Arai I, Yongue J, Tsutani K., From GMP to GPMSP: How GxP influence Japan's Kampo Industry. 9th International Congress on Traditional Asian Medicine (ICTAM), Keil, Germany, 6 Aug 2017.
- 2) Motoo Y, Hakamatsuka T, Kawahara N, Arai I, Tsutani K. Standards of Reporting Kampo Products (STORK) as a reference for Kampo extracted products. The 12th Congress of the International Society for Complementary Medicine Research (ISCMR) , Berlin, Germany, 3 May 2017.
- 3) Arai I, Kawano N. Current Status of Kampo Medicines, Japanese Herbal Medicine. International Standard of Chinese Herbal Medicines and Development of Notoginseng Industry Forum, Kunming, China, 23 Nov 2016.
- 4) Arai I. Current Status of Integrative Medicine in Japan. At Jangheung International Integrative Conference 2016 (hosted by Jangheung International Integrative Medicine Expo), Jangheung, Korea, 29 Sep 2016.
- 5) Motoo Y, Arai I, Tsutani K. Systematic review on the use of Kampo diagnosis in randomized controlled trials of Kampo medicines. The Third International Symposium for Japanese Kampo Medicine, Vienna, Austria, 19 Jun 2015.
- 6) Arai I. Industry of Kampo Medicines and Regulation on Herbal Drug Development in Japan. At symposium "Recent trends of new herbal medicine development, commercialization and regulation" (hosted by BK21plus Korean Medicine Science Center, Institute of Oriental Medicine Kyung Hee University), Seoul, Korea, 25 Feb 2015.
- 7) Motoo Y, Arai I, Tsutani K. Use of Kampo diagnosis in randomized controlled trials of Kampo products in Japan: a systematic review. The 17th International Congress of Oriental Medicine, Taipei, Taiwan, 1 Nov 2014.
- 8) Arai I. The Status of Japanese traditional medicine and medicinal plants. At Annual Autumn Conference of the Korean Society of Medicinal Crop Science, Sancheong, Korea, 10 Oct 2013.

[国内学会]

- 1) Tominaga Y, Takuma H, Arai I, Tsutani K. Can we properly locate safety information associated with Kampo medicines in VigAccess ? : Coverage by WHO international drug monitoring system. 2017 12.7. 第 38 回日本臨床薬理学会総会 (横浜)
- 2) 伊藤桃, 柴田健太郎, 佐々木裕伊, 高成奎 (Ko Seong-Gyu), 津谷喜一郎, 新井一郎. 日中韓で現在使用される伝統医学処方成立時期, 2017.10.28.日本薬史学会 2017 年会 (埼玉)
- 3) 元雄良治, 保坂政嘉, 新井一郎, 石浦嘉久, 伊東友弘, 関義信, 内藤立暁, 中山健夫. がんサポーターブケアにおける医療用漢方製剤の有効性の評価: 漢方治療エビデンスレポート (EKAT) から Advanced EKAT の構築. 第 2 回日本がんサポーターブケア学会学術集会 (大宮, 2017.10)
- 4) 古谷裕人, 山野井喜隆, 河野徳昭, 木内文之, 合田幸広, 袴塚高志, 新井一郎, 川原 信夫. 国際調和に向けた各国薬局方の比較研究ー日本薬局方と中国薬典における生薬の成分定量法の総合的比較ー. 2017.9.9.日本生薬学会第 64 回年会 (千葉)

- 5) 山野井喜隆, 古谷裕人, 河野徳昭, 木内文之, 合田幸広, 袴塚高志, 新井一郎, 川原 信夫. 国際調和に向けた各国薬局方の比較研究－日本薬局方と中国薬典における代表的生薬の成分定量法の比較－. 2017.9.9. 日本生薬学会第 64 回年会 (千葉)
- 6) 元雄良治, 袴塚高志, 川原信夫, 三成美由紀, 新井一郎, 津谷喜一郎. 漢方処方の引用元としての STORK. 2017.8.26. 第 34 回 和漢医薬学会学術大会 (福岡)
- 7) 保坂政嘉, 新井一郎, 石浦嘉久, 伊東友弘, 関義信, 内藤立暁, 中山健夫, 元雄良治. がんの支持療法における漢方製剤の有効性の評価: “Advanced EKAT” 作成の試み. 2017.6.4. 第 68 回日本東洋医学会学術総会 (名古屋)
- 8) 篠田量太, 山路誠一, 吉田和範, 赤坂優駿, 新井一郎, 寺林進, 酒井英二, 阿部尚人, 三宅克典, 合田幸広, 川原信夫, 飯田修. 日本薬局方『ボクソク』の生薬学的研究 (第 4 報). 2017.3.25. 日本薬学会第 136 年会 (仙台)
- 9) 萩原ユカ, 新井一郎, 元雄良治. RCT 論文中の安全性情報をもとにした漢方製剤の副作用分析. 2017.3.25. 日本薬学会第 136 年会 (仙台)
- 10) 湯川慶子, 三澤仁平, 津谷喜一郎, 佐藤洋子, 水島洋, 元雄良治, 新井一郎. パーキンソン病患者の補完代替医療の利用状況. 2016.11.18. 第 4 回日本難病医療ネットワーク学会学術集会 (名古屋)
- 11) 山路誠一, 柴崎早紀子, 新井一郎. 埼玉県深谷市花園地区に伝わる民間薬. 2016.9.24. 日本生薬学会第 63 回年会 (富山)
- 12) 小林直矢, 山路誠一, 新井一郎. 和英・英和辞典における漢方、中医学用語の翻訳語の分析. 2016.8.27. 第 33 回 和漢医薬学会学術大会 (東京)
- 13) 碓谷奈緒美, 新井一郎, 山路誠一, 津谷喜一郎. 漢方論文における「漢方処方名ローマ字表記法」(2005) 処方名の採用状況. 2016.8.27. 第 33 回 和漢医薬学会学術大会 (東京)
- 14) 前田智司, 飯塚晃, 新井一郎, 池田満雄, 上田晴久, 川久保弘, 北村繁幸, 小林賢, 新木敏正, 高野文英, 高橋栄造, 西川由浩, 伏谷眞二, 船山信次, 山田泰弘. 薬学教育における学習意欲とコミュニケーション能力の醸成のための PBL 型実習の実施とその評価. 2016.3.27. 日本薬学会第 136 年会 (横浜)
- 15) 唐文涛, 長澤道行, 池田秀子, 新井一郎, 津谷喜一郎. 2015 年 4 月施行の機能性表示食品制度の世界的な位置づけ－日本の特定保健用食品制度と米国の Dietary Supplements 制度との比較－. 2015.12.11. 第 36 回日本臨床薬理学会学術総会 (東京)
- 16) 山路誠一, 保本裕子, 新井一郎, 伏見裕利, 小松かつ子. 本草文献に見られる生薬の産地と性状の記載 (2) - 「防風」について. 2015.8.23. 第 32 回和漢医薬学会学術大会 (富山)
- 17) 川井龍美, 飯塚晃, 新木敏, 奈佐吉久, 船山信次, 中村和男, 伏谷眞二, 北村繁幸, 小林 賢, 齋藤俊昭, 喜多代晋, 新井一郎, 西川由浩, 稲瀬實. 薬学教育における学習意欲とコミュニケーション能力の醸成のための PBL 型実習の実施とその評価. 2015.3.27. 日本薬学会第 135 年会 (神戸)
- 18) 唐文涛, 池田秀子, 新井一郎, 津谷喜一郎. 米国における dietary supplement としての中薬製品－流通品のラベル表示の評価－. 2015.3.28. 日本薬学会第 135 年会 (神戸)
- 19) 唐文涛, 池田秀子, 新井一郎, 津谷喜一郎. 米国における dietary supplement としての中薬製品－ラベル表示を評価するための項目案の開発－. 2014.3.28. 日本薬学会第 134 年会 (熊本)

3. その他特筆すべき研究業績

[研究費獲得]

- 1) 2017 (平成 29 年度) 日本医療開発機構 (AMED) 委託研究開発 ISO/TC249 における国際規格策定

- に資する科学的研究と調査および統合医療の一翼としての漢方・鍼灸の基盤研究、
(17lk0310040h0001) (研究代表者 千葉大学 並木隆雄) 分担、5,088 千円 (間接込)
- 2) 2017 (平成 29 年度) 日本医療開発機構 (AMED) 委託研究開発 統合医療についての患者・国民及び医師の適切な選択に資するような情報発信のあり方に関する研究 (17lk0310038h0001) (研究代表者 金沢医科大学 元雄良治) 分担、500 千円 (間接込)
- 3) 2017 (平成 29 年度) 日本医療開発機構 (AMED) 委託研究開発 国内外における統合医療の利用提供実態および健康被害の調査と社会的決定要因分析による日本型統合医療の提案 (課題管理番号 17lk0310039h0001) (研究代表者 日本薬科大学 新井一郎)、代表、4,000 千円 (間接込)
- 4) 2016 (平成 28 年度) 日本医療開発機構 (AMED) 委託研究開発 ISO/TC249 における国際規格策定に資する科学的研究と調査および統合医療の一翼としての漢方・鍼灸の基盤研究、
(16lk0310025h0001) (研究代表者 東京有明医療大学 東郷俊宏) 分担、5,085 千円 (間接込)
- 5) 2016 (平成 28 年度) 日本医療開発機構 (AMED) 委託研究開発 医療情報発信サイトに関する客観的評価および統合医療に関するシステマティック・レビューの実施、(16lk0310023h0001) (研究代表者 金沢医科大学 元雄良治) 分担、500 千円 (間接込)
- 6) 2016 (平成 28 年度) 日本医療開発機構 (AMED) 委託研究開発 国内外における統合医療の利用提供実態および健康被害の調査と社会的決定要因分析 (課題管理番号 27390601) (研究代表者 日本薬科大学 新井一郎)、代表 12,000 千円 (間接込)
- 7) 2015 (平成 27 年度) 日本医療開発機構 (AMED) 委託研究開発 ISO/TC249 における国際規格策定に資する科学的研究と調査および統合医療の一翼としての漢方・鍼灸の基盤研究、
(15lk0310007h0001) (研究代表者 東京有明医療大学 東郷俊宏) 分担、代表一括 (総額 20,000 千円、間接込)
- 8) 2015 (平成 27 年度) 日本医療開発機構 (AMED) 委託研究開発 統合医療の国内の使用状況・医療機関での提供状況・健康被害状況の各調査ならびに東アジア諸国との比較による日本の政策提言のインフラ作成、(課題管理番号 15lk0310008h0001) (研究代表者 東京有明医療大学 津谷喜一郎) 分担、代表一括 (総額 10,000 千円、間接込)
- 9) 2014 (平成 26 年度) 厚生労働科学研究委託費 地域医療基盤開発推進研究事業 ISO/TC249 における国際規格策定に資する科学的研究と調査および統合医療の一翼としての漢方・鍼灸の基盤研究、
(H26-統合-一般-002) (研究代表者 東京有明医療大学 東郷俊宏) 分担、代表一括 (総額 20,000 千円、間接込)
- 10) 2014 (平成 26 年度) 厚生労働科学研究委託費 地域医療基盤開発推進研究事業 海外諸国の各医療制度の中での「統合医療」の使用実態・健康被害・エビデンスの調査および日本の医療機関での使用実態調査、(H26-統合-一般-001) (研究代表者 東京大学大学院薬学系研究科・医薬政策学 津谷喜一郎) 分担、代表一括 (総額 10,000 千円、間接込)

Ⅱ. 教育業績

1. 担当授業科目

2017 年度

臨床薬理学 (6 年) 10 コマ

新薬論 (4 年) 10 コマ

漢方処方学 (4 年) 10 コマ中 5 コマ

漢方薬の基礎と応用（3年）15 コマ x 2 回

薬学総合演習 II （6年）4 コマ

薬学総合演習 IB（4年）2 コマ

2016 年度

臨床薬理学（6年）10 コマ

臨床漢方治療学 III（6年）10 コマ

新薬論（4年）10 コマ

漢方処方学（4年）10 コマ中 5 コマ

薬学総合演習 II （6年）2 コマ

薬学総合演習 IB（4年）1 コマ

2015 年度

臨床薬理学（6年）10 コマ

臨床漢方治療学 III（6年）10 コマ

新薬論（4年）10 コマ

漢方処方学（4年）10 コマ中 5 コマ

薬学総合演習 II（6年）2 コマ

薬学総合演習 IB（4年）1 コマ

2014 年度

臨床薬理学（6年）15 コマ x 2 回

臨床漢方治療学 III（6年）15 コマ

新薬論（4年）15 コマ

漢方処方学（4年）15 コマ中 8 コマ

薬学総合演習 II（6年）1 コマ

薬学総合演習 IB（4年）1 コマ

2. その他特筆すべき教育業績

2017 年度

生薬学実習

職業実践力育成プログラム 漢方アロマコース 責任者&講義 6 コマ

OSCE 委員会 実施責任者

総合薬学勉強会（5年生）3 コマ

国際交流学生への講義（台湾からの留学生）1 コマ

長崎大学熱帯医学研究所 医薬品研究開発ディプロマコース（開発途上国学生）1 コマ

2016 年度

生薬学実習

薬学演習 IA, IB（3年）（責任者）

職業実践力育成プログラム 漢方アロマコース 責任者&講義 6 コマ

OSCE 委員会 実施責任者

総合薬学勉強会（5 年生）3 コマ

国際交流学生への講義（台湾からの留学生）4 コマ

登録販売者試験対策講義（4 年生）2 コマ

長崎大学熱帯医学研究所 医薬品研究開発ディプロマコース（開発途上国学生）1 コマ

2015 年度

OSCE 委員会 実施副責任者

国際交流学生への講義（台湾からの留学生）4 コマ

長崎大学熱帯医学研究所 医薬品研究開発ディプロマコース（開発途上国学生）1 コマ